



証券コード：8508

株主・投資家の皆様へ

## 第37期 中間報告書

平成24年4月1日 ▶ 平成24年9月30日

A background image of a sailing boat on the water at sunset. The sky is a mix of orange, red, and blue, with the sun low on the horizon. The boat's mast and rigging are visible in the foreground, and the water reflects the colors of the sky.

J TRUST Investor Relations

新たなチャレンジで、成長を拡大

# Jトラストグループの事業概要

## 事業内容

### 金融サービス

- クレジットカード事業
- 信用保証事業
- 事業者向け・消費者向け貸付業務
- サービサー業務
- 債権買取業務



### 不動産サービス

- 注文住宅事業
- 建売住宅の販売・仲介事業
- 中古住宅のリノベーション事業



### 海外事業

- 消費者向け貸付業務
- 貯蓄銀行事業



### アミューズメント事業

- アミューズメント施設運営、開発、設計、施工
- アミューズメント用品の販売



### その他の事業

- IT事業
- 印刷事業
- 投資事業



## 成長の軌跡

( ■ 営業収益 単位：億円)



## 成長し続ける総合金融グループとして

当社は金融事業を軸に、不動産事業、海外事業、アミューズメント事業等の領域で深い経験とノウハウを持つ総合金融グループです。個々の事業のノウハウの結集で大きなシナジーを発揮するとともに、新たな挑戦により更なる成長を目指します。

Jトラストグループの詳細は P5 へ

## 株主の皆様へ



財務基盤とノウハウ・人材の強みを活かした、  
効率の高い事業展開による成長を目指します。

代表取締役社長 藤澤 信義

Q

当上半期の営業状況と成果についてご説明願います。

A

前期に取得したKCカードと武富士の寄与により、業績を大幅に拡大しました。

これまで当社は、投資効率を踏まえたM&Aや債権買取り等により、事業基盤の整備・拡大と安定化に向けた体制づくりに取り組んできました。同時に、子会社間の資産・事業の移動や合併など、その時々で最も効率的な改革を進め、いかなる厳しい環境下でも生き残れる、筋肉質な企業を目指してきました。

この上半期は、4月に株式交換による株式会社ネクストジャパンホールディングス(7月に当社へ吸収合併)の子会社化を皮切りに、6月にはアドアーズ株式会社を当社の連結対象範囲に含め、さらに7月にはJTインベストメント株式会社(旧ネオラインホールディングス株式会社)を子会社化しました。また、9月には株式会社プロプロと株式会社日本保証が合併し、新たに社名を株式会社日

本保証に変更しました。

当上半期の連結業績は、前期に取得したKCカード株式会社におけるクレジット事業収益や更生会社株式会社武富士(現 更生会社TFK株式会社)から承継した消費者金融事業からの事業収益が加算されたこと等により大幅に増加しています。営業収益は244億57百万円(前年同期比142.0%増)、営業利益は74億90百万円(同282.6%増)、経常利益は74億83百万円(同480.8%増)、四半期純利益は74億45百万円(同75.4%減)となりました。なお、四半期純利益の減少は、前期においてKCカードの株式取得に係る負ののれん発生益、294億44百万円を特別利益に計上したことによるものです。

現在、KCカードと日本保証(武富士)の業績は好調に推移しています。当上半期の連結業績のうち、両社の合計による寄与は、営業収益において約55.4%、営業利益において約84.7%にのぼり、極めて大きな貢献要素となりました。

## 株主の皆様へ

Q

事業展開において、どのような強みを発揮していますか？

A

強固な財務基盤と、ノウハウ・人材の活用という2つの強みが武器となっています。

当社の事業展開における強みは、2点挙げられると思います。ひとつは、過去のM&Aを通じて拡大した財務基盤を活かすことによるキャッシュ・フロー経営です。もうひとつは、グループが持つ2,800万人を超える顧客データベースと、M&Aにより獲得した多様なノウハウ・人材を活用することで、効率の高いビジネス展開を行っていることです。

まず、初めに挙げた強固な財務基盤について、当社の自己資本比率を見ると、40.0%（2012年9月末）という高い数値を保持しています。公表されているデータによると（2012年3月末時点）、その他金融業に属する時価総額200億円以上の上場企業の自己資本比率の平均は16%ですので、当社の財務安定性は際立っていると言えるでしょう。また、有利子負債比率においても、同様の業界平均が自己資本の3.5倍となっているのに対し、当社は0.75倍（2012年9月末）と、1倍以下を維持しています。こうした高い財務安定性が、キャッシュ・フロー経営を可能とし、事業戦略を進める上での大きな強みとなっています。

そして、KCカードや武富士等の利用者を合わせた、2,800万人を超える顧客データベースと、M&Aにより蓄積してきた個人向け・事業者向けの無担保・有担保ローンに関する金融ノウハウ・人材は、当社グループのもうひとつの強みとして、銀行との信用保証事業や、M&A、債権買取を優位に展開していく上での武器となっています。

Q

中長期の成長に向けた取り組みについてご説明願います。

A

信用保証事業の拡大、BtoC事業とクレジットカードの展開、海外金融事業の3つがテーマです。

当社は今、大きく3つの成長戦略を掲げ、事業拡大への取り組みを進めています。

成長戦略の1点目は、当社グループが持つ独自のスキームを活用した信用保証事業の拡大です。昨今の業界を取り巻く環境を考えると、自社のアセットの積み上げのみで生き残りを図ることは、大きな困難を伴います。そのため当社は、銀行の信用力と資金力に、当社が持つノウハウ・人材を融合し、緊密なパートナーシップを築いていくことで、信用保証事業の拡大を目指しています。

現在、他社にはない独自の信用保証スキームにより、利益率の向上と保証履行率の低減を実現しており、パートナーである提携先金融機関からは高い評価と信頼を得ています。今後は提携先をさらに増やし、信用保証残高の積み上げを図ります。

成長戦略の2点目は、BtoC事業を活用したクレジットカード会員の獲得強化です。入会時に本人確認が必要なクレジットカードと、本人確認が可能なビジネスを融合し、プラットフォームとして活用することで、さまざまなBtoCビジネスを展開しつつ、クレジットカード会員を増加させていく考えです。

当社グループでは、アドアーズを通じてレンタルDVD・CD事業を展開中ですが、今後は不動産賃貸業等のプラットフォームを活かしたBtoCビジネスやKCカードが楽天時代に培ったEコマースによるクレジットカード会員の獲得も視野に入れています。

そして、成長戦略の3点目は、海外における金融事業の拡大です。当社グループは、韓国の金融市場を舞台に消費者金融事業を展開しており、今年10月には貯蓄銀行業への参入を果たしました。日本で培ってきたさまざまな金融ノウハウを活かし、事

業基盤のさらなる拡大と収益力の向上を図るとともに、韓国の中小企業と地域住民の多様なニーズに対応すべく、金融サービスを拡充し、グローバルな経済発展に寄与していきたいと思っています。

**Q** 株主の皆様にお伝えしたいメッセージをお願いします。

**A** 安定配当を基本方針とした上で、每期増配を意識。IR活動にも注力していきます。

通期の連結業績予想については、KCカードおよび日本保証の好調を踏まえ、また、JTインベストメントの子会社化による影響額を勘案し、営業収益560億70百万円（前期比128.8%増）、営業利益116億19百万円（同109.8%増）、経常利益120億48百万円（同119.6%増）、当期純利益115億64百万円（同66.5%減）を見込んでいます。

当期の期末配当は、1株当たり4円を計画しており、今回実施させていただいた中間配当の同3円と合わせ、年間配当額は同7円となる予定です。なお、当社は本年6月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っています。これにより、当期の年間配当額は前期の実績に比し、2円の増配となる予定です。

当社は、株主の皆様への適正な利益還元を経営における最重要施策のひとつとして認識しています。一方、配当性向という観点では、M&Aによる事業規模の拡大を主要な成長戦略と考えておりますので、前期における負ののれん発生益のように、大幅な特別利益が発生した場合は、結果として配当性向が低くなる傾向があります。これを踏まえ当社では、安定的な配当実施を基本方針とした上で、每期増配を意識しております。今後、事業のインフラが整い安定基調となった段階で、利益分配の指標とし

ての配当性向をご提案させていただく考えです。

なお、当社では株式市場に向けて積極的なIR活動を展開すべく、2012年1月に広報・IR部を新設しました。国内外問わず数多くの機関投資家やアナリスト、証券会社の方々とのミーティングを通じて、当社事業の理解促進を図ると同時に、個人投資家説明会や決算説明会の開催、イベント出展などにも力を注いでいます。これからもIR活動のさらなる充実に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



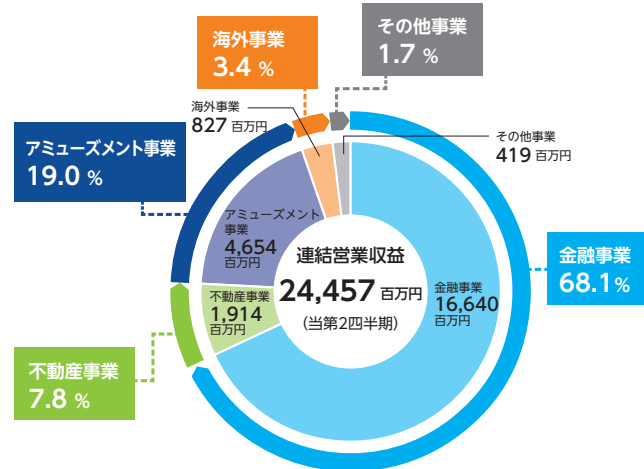


## 特集 グループ会社のご紹介

グローバルな競争力を持った総合金融グループを目指して、グループ全体でシナジー効果を発揮してまいります。

Jトラストはホールディングカンパニーとして、グループの方針策定やその実現に向けた専門的なサポートを行っています。財務基盤を強化しながら、事業の特性に合わせた投資評価と管理を行い、中核事業への重点資源配分や横断的な施策など、グループ全体としての最適化を行い、時代を見据えたグローバルな競争力を持った総合金融グループを目指しています。また、個々の事業の経営は、責任と権限を与えられたグループ各社が、それぞれの事業特性を踏まえて推進しています。

■ セグメント別営業収益構成比



### グループ体制図



### 新グループ会社紹介 当上半期に新たに加わった4社をご紹介します。

**株式会社クレディア**  
**クレディア**

個人消費者の皆様の幅広いニーズへの対応と満足のいく顧客サービスを提供しています。

株式会社クレディアは、お客様の未来を応援し、提案するという企業理念の下、消費者・事業者向けローン業務を展開しています。経験豊富なスタッフと蓄積されたノウハウにJトラストの「信用」「信頼」を融合し、更なる顧客満足度の充実を実現致します。

**アドアーズ株式会社**  
**ADORES**

夢と感動あふれる遊空間の提供を通じて、人々にうらおいと笑顔運びます。

アドアーズ株式会社は、首都圏を中心に全国66店の遊戯施設を展開・運営する、アミューズメント施設総合開発企業です。「夢と感動あふれる遊空間の提供を通じて、人々にうらおいと笑顔運び」を企業理念に、全てのお客様にご満足いただけるサービスと空間をご提供しています。

**株式会社ブレイク**  
**P:reak**

アミューズメントの枠に捉われない総合エンターテインメントを展開しています。

株式会社ブレイクは、アミューズメント機器用景品の企画・製作・販売をはじめ、アミューズメント施設の運営・コンサルティング等を行っています。ライセンスキャラクターに加え、個性ある人気のオリジナルキャラクターを多数取り扱い、お客様の多様なニーズにお応えしています。

**株式会社エーエーディ**  
**AD**

半世紀以上の“ものづくり”実績を基盤に、メディアミックスを推進します。

株式会社エーエーディは、印刷業務、広告代理業務、イベント企画・運営業務に確かな実績を築いてきた総合印刷会社です。今後もお客様の想像以上のサービスを実現する為、絶えず「創意工夫」と「自己革新」を念頭に置き、お客様に努力し、成長進化し続けます。

※親愛貯蓄銀行につきましては、9ページのトピックスをご参照下さい。

## 連結財務データ

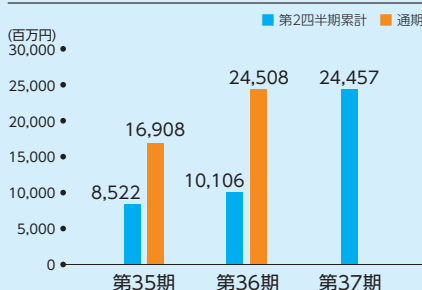
## ■ 四半期連結貸借対照表

科目	期別	当第2四半期 (平成24年9月30日現在)	前年同期 (平成23年9月30日現在)	前 期 (平成24年3月31日現在)
<b>資産の部</b>				
<b>流動資産</b>				
1 現金及び預金		22,346	17,159	10,362
商業手形		1,784	2,060	2,119
営業貸付金		24,984	14,160	27,713
割賦立替金		55,319	80,831	65,024
その他		16,158	8,961	8,556
貸倒引当金		△6,146	△7,147	△6,813
<b>固定資産</b>				
2 (有形固定資産)		(11,936)	(5,394)	(5,095)
(無形固定資産)		(3,479)	(498)	(1,120)
(投資その他の資産)		(12,231)	(2,906)	(4,366)
投資有価証券		701	515	515
長期営業債権		6,603	10,437	8,487
2 その他		10,942	1,350	3,087
貸倒引当金		△6,016	△9,396	△7,723
<b>資産合計</b>		<b>142,094</b>	<b>124,823</b>	<b>117,546</b>

(単位：百万円)

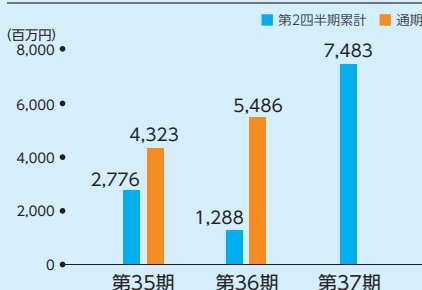
科目	期別	当第2四半期 (平成24年9月30日現在)	前年同期 (平成23年9月30日現在)	前 期 (平成24年3月31日現在)
<b>負債の部</b>				
<b>流動負債</b>				
3 割引手形		1,564	1,573	1,776
短期借入金		3,575	18,391	25,039
一年以内返済予定長期借入金		5,734	1,805	2,537
未払金		2,341	19,407	1,641
利息返還損失引当金		8,348	11,804	10,172
その他		5,843	1,881	2,827
<b>固定負債</b>		<b>50,011</b>	<b>24,689</b>	<b>24,079</b>
4 長期借入金		31,925	12,888	13,670
利息返還損失引当金		13,582	11,002	9,711
債務保証損失引当金		3,230	180	290
その他		1,271	617	407
<b>負債合計</b>		<b>77,419</b>	<b>79,553</b>	<b>68,074</b>
<b>純資産の部</b>				
<b>株主資本</b>				
資本金		4,542	4,500	4,530
資本剰余金		3,883	2,234	2,265
利益剰余金		48,641	37,362	41,377
自己株式		△114	△72	△72
<b>その他の包括利益累計額</b>		<b>△81</b>	<b>△55</b>	<b>△32</b>
その他有価証券評価差額金		0	4	4
為替換算調整勘定		△81	△59	△37
<b>新株予約権</b>		<b>165</b>	<b>79</b>	<b>103</b>
少数株主持分		7,637	1,222	1,300
<b>純資産合計</b>		<b>64,674</b>	<b>45,270</b>	<b>49,471</b>
<b>負債純資産合計</b>		<b>142,094</b>	<b>124,823</b>	<b>117,546</b>

## ■ 営業収益

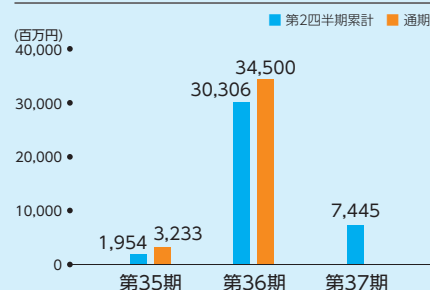


(注) 第37期は、連結子会社が増加したことに加え、KCカード(株)及び(株)ロプロ(現(株)日本保証)の収益が貢献し、前年同期に比べ大幅に増加しております。

## ■ 経常利益



## ■ 四半期(当期)純利益



(注) 第36期において、KCカード(株)を連結子会社としたことに伴い、負ののれん発生益29,444百万円を計上しております。

## ■ 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当第2四半期	前年同期	前 期
		(平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	(平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	(平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
5 営業収益		24,457	10,106	24,508
営業費用		7,512	1,938	4,539
営業総利益		16,944	8,168	19,969
6 販売費及び一般管理費		9,453	6,210	14,429
営業利益		7,490	1,957	5,539
営業外収益		250	86	234
営業外費用		257	756	287
経常利益		7,483	1,288	5,486
7 特別利益		430	29,467	29,919
特別損失		30	34	86
税金等調整前 四半期(当期) 純利益		7,883	30,721	35,319
法人税、住民税及び 事業税		368	529	702
法人税等調整額		△84	△147	1
少数株主損益調整前 四半期(当期) 純利益		7,598	30,339	34,615
少数株主利益		153	32	114
四半期(当期) 純利益		7,445	30,306	34,500

### Point 1

連結子会社の取得に伴う支出があった一方で、商業手形、営業貸付金及び割賦代替金(長期営業債権を含む)の回収が順調に進んだことによる収入があった結果、前期末に比べ11,983百万円増加しております。

### Point 2

アドアーズ(株)を連結子会社としたことに伴い、有形固定資産が6,627百万円、差入保証金が6,349百万円(投資その他の資産)それぞれ増加しております。

### Point 3

代表者からの借入金22,000百万円のうち2,000百万円は返済し、それ以外は同人の連結子会社からの借入による貸付金と相殺しております。

### Point 4

連結子会社が増加したことに伴い15,947百万円増加し、自己信託方式による調達を2,000百万円実施しております。

### Point 5

前期8月に連結子会社としたKCカード(株)及び今年3月に(株)プロ(現(株)日本保証)が承継した更生会社(株)富士の消費者金融事業に係る収益が貢献し、また、連結子会社が増加したことに伴い、前年同期に比べ14,350百万円増加しております。

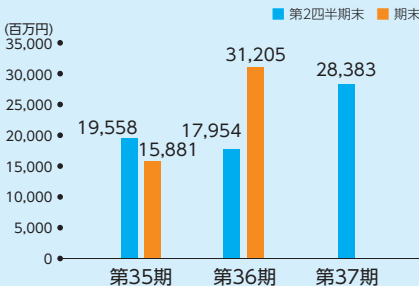
### Point 6

連結子会社が増加したことに伴い、前年同期に比べ3,243百万円増加しております。

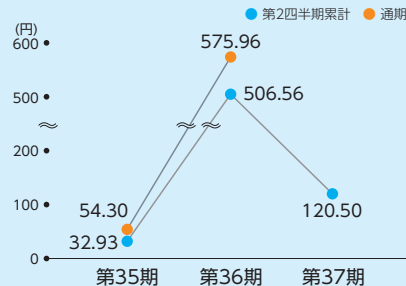
### Point 7

前年同期において、KCカード(株)を連結子会社としたことに伴い、負ののれん発生益29,444百万円を計上しております。

## ■ 融資残高

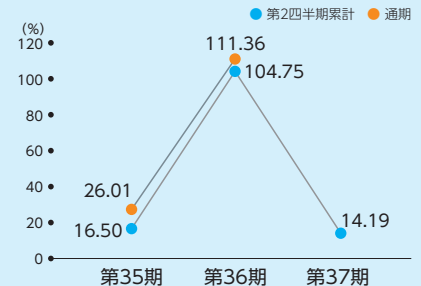


## ■ EPS (1株当たり四半期(当期) 純利益)



(注) 当社は、平成24年6月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。第35期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期) 純利益を算定しております。

## ■ ROE (自己資本四半期(当期) 純利益率)





## トピックス

**Topics 01** 親愛貯蓄銀行株式会社が韓国での貯蓄銀行業の認可を取得しました

KCカード株式会社が韓国に設立した親愛株式会社は10月5日に、韓国の株式会社未来貯蓄銀行の一部資産及び負債を承継するとともに、韓国での貯蓄銀行業の認可を取得し事業への参入が認められ、親愛貯蓄銀行株式会社として10月12日より営業を開始いたしました。

『お客様のため』『地域のため』『私たち自身のため』に、いかなる時も迅速に、誠実にチャレンジし続け、皆様とともに、韓国の未来を創造するという企業理念のもと、事業を展開してまいります。

**Topics 02** 株式会社日本保証のテレビCM「心が躍る篇」が放送開始しました

株式会社日本保証では、消費者金融事業を承継した新生武富士の始動を広く認知いただくためテレビCM「心が躍る篇」の放送を10月13日より開始いたしました。

「ダンスという言葉のいらない共感活動を通して話題を提供し、日本を再活性化させ日本を元気にする。」というコンセプトのもと、キーワードを「Re ENERGY」として全国津々浦々で、あらゆる職業の人々が元気よくダンスを踊る内容となっております。

**Topics 03** 個人投資家向けIRイベント、日経IRフェア2012に出展しました

当社は8月31日、9月1日に東京ビッグサイトで行われた、個人投資家向けIRイベントである日経IRフェア2012に出展いたしました。イベントには2日間で14,195名の来場があり、当社出展ブースや代表取締役社長による説明会にもたくさんの投資家の皆様にお集まりいただけ、コミュニケーションを深めることができました。

来年2月15、16日に開催の東証IRフェスタにも参加いたします

東証IRフェスタ 開催日：平成25年2月15・16日

開催場所：有楽町・東京国際フォーラム



# 企業データ (平成24年9月30日現在)

## 会社の概要

商号	Jトラスト株式会社
資本金	45億42百万円
設立	昭和52年3月
本社所在地	〒105-0001 東京都港区虎ノ門丁目7番12号 虎ノ門ファーストガーデン
電話番号	03-4330-9100 (代表)
事業内容	ホールディング業務・債権買取業務
営業所	大阪支店
従業員	73名 (注) 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含みます。)であります。

## 株式の状況

発行可能株式総数	240,000,000株
発行済株式の総数	62,415,652株
(注) 1. 平成24年6月1日付で1株を2株に分割しております。 2. 平成24年6月27日開催の第36回定時株主総会にて、発行可能株式総数が240,000,000株となっております。	
株主数	8,010名

### 大株主(上位10名)

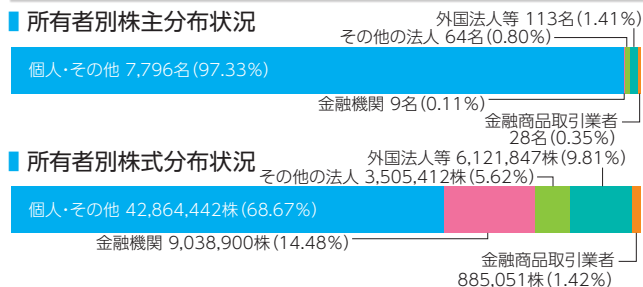
株主名	株式数(株)	持株比率(%)
藤澤信義	30,047,372	48.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,790,700	6.07
株式会社西京銀行	2,890,000	4.63
株式会社整理回収機構	2,640,000	4.23
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,685,200	2.70
モルガンスタンレーアンドカンパニーエルエルシー	780,500	1.25
クレディ・スイス・セキュリティーズ(ユーエスエー)エルエルシー	614,500	0.98
エスピーシーエル・フォーイーエックスシーエル・ピーイーエヌ	461,800	0.74
神林忠弘	461,800	0.74
大阪証券金融株式会社	421,800	0.68
ステート ストリート バンク アンド トラストカンパニー 505019	419,900	0.67

## 役員

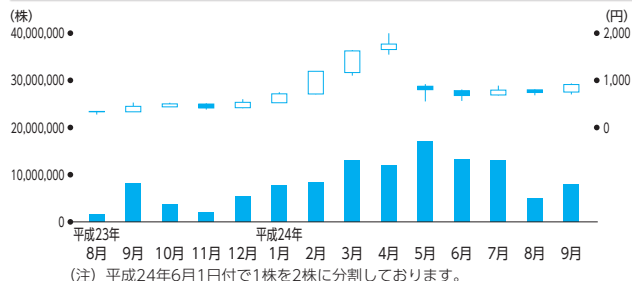
代表取締役社長	藤澤 信義
代表取締役副社長	千葉 信育
取締役	橋本 泰
取締役	黒田 一紀
取締役	三吉 誠
取締役	西川 幸宏
取締役	上村 憲生
取締役	西 範行
常勤監査役	大西 眞夫
常勤監査役	山根 秀樹
監査役	井上 允人
監査役	内藤 欣也

- (注) 1. 取締役 西 範行氏は社外取締役であります。  
2. 監査役 山根 秀樹、内藤 欣也の2氏は社外監査役であります。  
3. 代表取締役 千葉 信育は、平成24年10月5日付で代表取締役副社長を辞任し、取締役に就任しております。

## 株式分布状況



## 株価・出来高の推移



## KCカードのご紹介

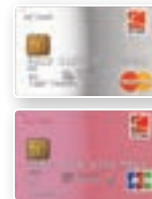
詳しくは  
こちら

KCカード

検索

## 日本を元気にするカード '新' KCカード誕生。

マスターカード、JCBのお店のどこでも200円で1ポイントプレゼント。  
貯まったポイントは特典満載のサービスでご利用頂けます。



Point  
1

### ポイントが貯まると ボーナスポイントがもらえる！

利用金額200円につき1ポイント貯まる「点でうれしいプレゼント」ポイントが2,000、5,000、10,000、20,000、40,000ポイントになった時、それぞれ1,000、2,500、5,000、10,000、20,000+5,000のボーナスポイントをプレゼント！

(※40,000ポイント到達時のみ、ボーナス20,000ポイントに加え、最終到達時ボーナス5,000ポイントをプレゼント)

Point  
2

### 「P割」で請求額から貯まった ポイントを割引できる！

「P割」とは、貯まったポイントを1ポイント1円で請求額から割引するサービス。貯まった「点でうれしいプレゼント」を1,000ポイント以上から100ポイント単位で交換できます。

### 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月開催
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
単元株式数	100株
上場証券取引所	大阪証券取引所
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ ( <a href="http://www.jt-corp.co.jp">http://www.jt-corp.co.jp</a> ) に掲載いたします。 なお、事故その他やむを得ない事由により、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

### (ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求、買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次いたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

## Jトラスト株式会社

東京都港区虎ノ門1丁目7番12号

虎ノ門ファーストガーデン

03-4330-9100 (平日 9:00~18:00)

UD FONT

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



森林管理協議会 (Forest Stewardship Council®) で認証された適切に管理された森林からの原料を含む、FSC認証紙を使用しています。



グリーンプリンティング認定制度を取得している工場での印刷を行っています。



環境にやさしい植物油インキを使用して印刷しています。